## 被災後の途上国支援の連携化に関するシステム論的研究 -インドネシアの事例 A Systems Study on Aid Coordination for Post-disaster Education - The Case Study in Indonesia

○杉本めぐみ・岡田憲夫 ○Megumi SUGIMOTO, Norio OKADA

The presentation addresses to model and analyze aid coordination process for post-disaster education in Indonesia after the mess 2004 Indian Ocean Tsunami. It is shown that stakeholders have the following two types of networks in the consortium for post-disaster education by use of roll-playing network model developed by Okada; one is a network of vertical-related organizations, and the other a horizontal social network. The result is that such social networks and consortium of consultations are helpful to build the trust relationship among participants, enable them to mutually collaborate and finally create a new aid coordination form to promote post-disaster education.

## 1.はじめに

インド洋沖津波被災後から約4年を経たインド ネシアでは、防災活動において多くのステークホ ルダーの共同による取り組みが、ジャカルタを中 心に活発に行われるようになった。例えば、防災 プロジェクトの3Wデータベースによる情報共有、 防災教育コンソーシアムの形成、首都圏洪水被害 の減災の取り組みなど多岐にわたる。他の津波被 災国には起きていない、一般の援助協調とは異な る協調の現象が、なぜ少なくともインドネシアで は、実現しているのか。それもなぜ、防災活動に 集中して起きているのか。本研究では、インド洋 沖津波災害後のインドネシアにおける防災教育支 援の連携化の展開に着眼する。この援助の連携の 推移が、災害復興援助の協調過程としてモデル化 できることを示す。具体的にはステークホルダー のネットワーク化とグループ形成とその後の進展 過程を役割ネットワークモデル(岡田 1997)で定 型化し、分析する。本事例分析を通じて、援助協 調が短期的には形成したことを示す。

## 2. 役割ネットワークモデルによるモデル化

防災教育活動の連携においてキープレイヤーの 定義と該当機関や個人を示した上で、防災教育の 援助協調過程のプロセスをモデル化する。そのモ デル化にあたって以下のような前提を置く。

防災教育に限定する。

平常期に設置され、「定常的活動を続ける参入と退出が自由な協同的枠組み」(「予備的協調体制」の成立)があり、それが下記の様

な意味で災害後も維持され、さらに学習し て進化する可能性がある。

競合的かつ緊急対処的対応が中心の時期 (防災教育の導入のタイミングとしてはむ しろ不適切なとき)を経て、回復期にさしか かったとき(脱緊急救援・準回復期)に、小 額・小規模であってもじっくりとした取組 みへの支援が必要かつ可能になる。

援助機関が予備的協調体制を基盤にして、相互に協力しあって一元的に目的を共有し、具体的な政策とプログラムをとりまとめ、 受益国に交渉して防災教育のプログラムの 実行する体制が整う。これを事後的で「短期的な援助協調」が行われたという。

それが再度、平常期(定例的会合とルーチン的活動の時期)に移っても維持され、予備的協調体制を拡大し、安定化する形で持続しうるとき、「長期的な援助協調」が成立したという。

なお本研究では、インドネシアの実例をもとにあくまで の「短期的な援助協調」が可能であることの傍証を得るに止まっている。「長期的な援助協調」については、その可能性を今後長期的に観測し、検証することが大切なことを指摘するに留める。

## 3.まとめ

本研究の論点は、事前に予備的協調体制が成立し、「『準水平的な』社会的ネットワーク」が形成・維持されていることが、災害後の準回復期になって、短期的協調を可能にする基盤を提供しうることをモデル分析する点にある。詳細は講演時に説明する。